

安全な国産グリーン社会

コラム
SDGS
Safety
Domestic
Green
Society

第26回

国内事情の再考①
—世界幸福度ランキング—

一般社団法人 洸楓座 代表理事 佐藤建吉

はじめに

本コラムで掲げているSDGSは、グリーン社会（コミュニティ）を造ることであると、本シリーズの第21回に述べた。そこに暮らす人々は《ウェルビーイング》であることを望む。このコラムでは、そのために国産を銘打ってその実現を図るために、国内事情の整備が重要であると述べてきた。

しかし、現代では目線をグローバルに向けなければならぬ。《ウェルビーイング》に関しては、しばしば引用される「世界幸福度ランキング」の結果を見ると、日本はまったく威張れる成績ではない。したがって、国産や国内などで偉ぶることは「池の中の蛙」や「自画自賛」のきらいもある。今回は、こうした立場からSDGSについて再考したい。

国内での
都道府県別幸福度

インターネットによる、都道府県ごとに住民の幸福度や生活満足度、愛着度、定住意欲度などを数値化する調査結果『第6

回幸福度調査2024』を知ることができる。各都道府県の住民へ、「あなたは幸せですか」というアンケートを行い、数値化したものである【註1】

結果は、「とても幸せ」と回答した人は47都道府県平均では25・0％、
「少し幸せ」が同36・5％となり6割以上が肯定的な回答を選んでいる。が、これは前年の64・3％よりも2・8％減少した。

世界幸福度とは？

目線を世界に転じると、毎年3月20日は国際連合が定める「国際幸福デー」であり、「世界幸福度ランキング」が公表される。2025年のランキングでは、フィンランドが8年連続の首位で、例年北欧諸国が上位を独占している。一方、日本は147カ国中の55位であった（表中に太字で表示してある）。

「世界幸福度ランキング」は、「世界幸福度報告（World Happiness Report）」として2012年から始まり、

今年で13年目となる。それは、《幸福やウェルビーイング》を啓発&促進するキャンペーンとして、前述の「国際幸福デー」（ハピネス・デー）が国連により制定されてスタートした。これにはつぎのような背景がある。

ランキングの基準

2025年の日本の順位は55位、24年は51位、23年は47位と順位を年々下けている。そのランキングの基準は何であろうか？次の7つである。

- ①一人当たりのGDP
- ②社会的支援（もしも困っているときに誰かが助けてくれるか）
- ③健康寿命（WHOの100の因子で評価）
- ④社会的自由（生活における選択の満足度／不満足度）
- ⑤寛容度（過最近月に寄付やボランティアなどをしたかどうかなど）
- ⑥汚職・腐敗の認知度（政府や行政、組織における不正の割合等）
- ⑦デストピア（監視社会、各種規制・その他これらの基準について、フィンランド（第1位）vs日本（第55位）として世界順位を比較している）

ランキングの
エフェクト

世界ランキングの高い国では、次のような良好なエフェクトが起きているという。

経済的要因

●GDPが大きく成長したことで、国民1人当たりの所得増加や生活水準の向上にもつながる

●雇用量が増え失業率が低下し、経済的安定と同時に将来への希望がもたらされる

●貧困から脱却し、基本的な生活ニーズが満たされるようになる

社会的要因

●家族や友人、地域社会からのサポートなど社会的支援が充実し、困難な状況でも精神的な安定が得られやすくなる

●衛生状態が改善

され出生後死亡率が減少し、平均寿命の向上や健康寿命が延び、健康状態が改善される

●学校などの整備により教育水準が向上し、IT産業など第3次産業に対する雇用機会が増加する

●犯罪率が低下し、治安が改善され社会が安定した自由に見え始める

●政府や社会の透明性が高まり、汚職が減少する

まとめ

北欧諸国は幸福度が高く、その背景には、福祉給付の広さや汚職度の低

さ、民主主義が機能していることなど国家制度による要因があるといえる。さらに、市民の自律性とそれを支える自由度の高さ、互いの社会的信頼が、人生の満足度を高めている。

【註1】

<https://diamond.jp/articles/-/349586>

【註2】

<https://www.wel-knowledge.com/article/worklife/as62>

【註3】

https://files.worldhappiness.report/WHR25_Data_Figure_2.1_xlsx?gl=1*1sm5g3*_scl_aup*TEOMzszlzc2hi4xNzIwOTI1NTky

連載